

5. フォローアップ計画

「東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会実施段階環境影響評価書（馬事公苑（仮施設）」（平成 30 年 9 月 東京都）では、東京 2020 大会の開催前、開催後を対象に環境影響評価を実施している。一方、東京 2020 大会の開催中における大会の運営等については、現時点では具体的な計画が未定のため、環境影響評価を実施せず、今後の計画の熟度に応じて、別途実施する予定としている。

そのため、本フォローアップ計画書では、東京 2020 大会の開催前、開催後を対象としたフォローアップ計画をとりまとめることとし、東京 2020 大会の開催中の環境影響評価及びフォローアップ計画は、別途実施する予定とする。

なお、恒久施設改修整備に係るフォローアップ計画は、「東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会フォローアップ計画書（馬事公苑）」（平成 28 年 12 月 東京都）及び「東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会フォローアップ計画書（馬事公苑（その 2）」（平成 29 年 8 月 東京都）として実施済みであり、本フォローアップ計画書では対象としない。

東京 2020 大会の開催前のフォローアップ計画は、以下のとおりであり、開催後については、開催前と同様にミティゲーションの実施状況についてのフォローアップを継続的に実施する。

5.1 大気等

(1) 東京 2020 大会の開催前

1) 調査事項

調査事項は、表 5.1-1 に示すとおりである。

表 5.1-1 調査事項(東京 2020 大会の開催前)

区 分	調査事項
予測した事項	・ 工事用車両の走行に伴い発生する二酸化窒素及び浮遊粒子状物質の大気中における濃度
予測条件の状況	・ 気象の状況(風向・風速) ・ バックグラウンド濃度の状況 ・ 工事用車両の状況(種類、台数、時間帯) ・ 一般車両の状況(種類、台数、時間帯)
ミティゲーションの実施状況	・ 工事用車両に付着した泥土等が場外に飛散しないよう、出入口付近に洗車設備を設けて必要に応じてタイヤ等の洗浄を行う等、土砂・粉じんの飛散防止に努める計画としている。 ・ 低公害型の工事用車両を極力採用し、良質な燃料を使用するとともに、適切なアイドリングストップ等のエコドライブ及び定期的な整備点検の実施を周知・徹底する計画としている。 ・ 施工業者に対する指導を徹底し、工事用車両の過積載を防止する計画としている。 ・ 工事用車両が一時的に集中しないよう、計画的かつ効率的な運行管理に努める計画としている。 ・ 工事作業員の通勤に際しては、公共交通機関を利用する等通勤車両の削減に努めるよう指導する計画としている。 ・ 計画地からの工事用車両の出入りに際しては交通整理員を配置し、通勤・通学をはじめ一般歩行者の通行に支障を与えないよう配慮するとともに、交通渋滞とそれに伴う大気汚染への影響の低減に努める。また、適宜清掃員を配置し、清掃に努める計画としている。 ・ 同時期に同計画地内で実施される日本中央競馬会の恒久施設改修整備との情報共有を行い、特に大型の工事用車両の走行ルートや走行時間帯の平準化を図り、交通渋滞とそれに伴う大気汚染への影響の低減に努める計画としている。

2) 調査地域

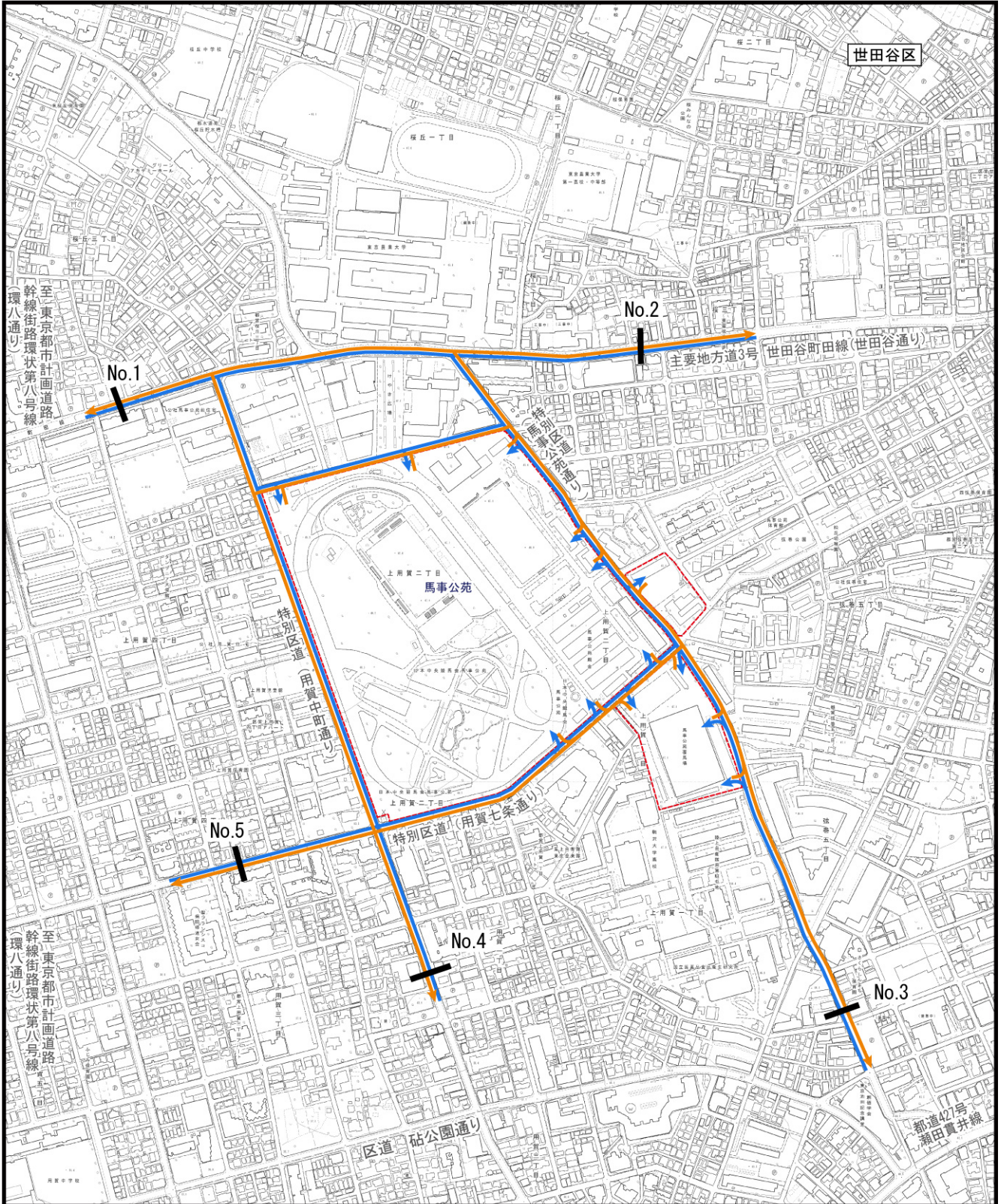
調査地域は、計画地及びその周辺とする。

3) 調査手法

調査手法は、表 5.1-2 に示すとおりである。

表 5.1-2 調査手法(東京 2020 大会の開催前)

調査事項		工事用車両の走行に伴い発生する二酸化窒素及び浮遊粒子状物質の大気中における濃度
調査時点		大会開催前及び開催後の期間のうち、工事用車両の走行台数が最大となる時点(工事着工後3か月目)とする。
調査期間	予測した事項	代表的な1週間とする。
	予測条件の状況	【気象の状況、バックグラウンド濃度の状況】 「予測した事項」と同一期間とする。
		【工事用車両、一般車両の状況】 「予測した事項」の調査期間内の代表的と考えられる1日とする。
	ミティゲーションの実施状況	工事中の適宜とする。
調査地点	予測した事項	工事用車両走行ルート上の5地点(図5.1-1に示す地点No.1~5)とする。
	予測条件の状況	【気象の状況】 東京管区気象台(風向・風速)とする。
		【バックグラウンド濃度の状況】 計画地周辺の大気汚染常時観測局とする。
		【工事用車両の状況】 工事用車両の出入口とする。 【一般車両の状況】 工事用車両走行ルート上の5地点(図5.1-1に示す地点No.1~5)とする。
ミティゲーションの実施状況	計画地及びその周辺とする。	
調査手法	予測した事項	◎ 二酸化窒素 ・No.1~5 簡易測定法(PTIO法) ◎ 浮遊粒子状物質 既存資料並びに工事用車両台数の整理による方法とする。
	予測条件の状況	【気象の状況】 東京管区気象台(風向・風速)の観測値の整理による方法とする。
		【バックグラウンド濃度の状況】 計画地周辺の大気汚染常時観測局の観測値の整理による方法とする。
		【工事用車両の状況】 ハンドカウンタによる計測(大型車、小型車の2車種分類)及び関連資料(建設作業日報等)の整理による方法とする。 【一般車両の状況】 ハンドカウンタによる計測(大型車、小型車の2車種分類)とする。
ミティゲーションの実施状況	現地調査(写真撮影等)及び関連資料(建設作業日報等)の整理による方法とする。	



凡例

- 計画地
- 調査地点 (No. 1~5)
- 工事用車両集中ルート
- ← 工事用車両発生ルート



Scale 1:7,500

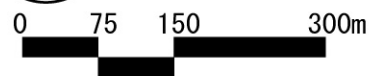


図 5.1-1
工事用車両の走行に伴う大気質の調査地点

5.2 騒音・振動

(1) 東京 2020 大会の大会開催前

1) 調査事項

調査事項は、表 5.2-1 に示すとおりである。

表 5.2-1 調査事項(東京 2020 大会の大会開催前)

区 分	調査事項
予測した事項	<ul style="list-style-type: none"> ・ 工事用車両の走行に伴う道路交通騒音 ・ 工事用車両の走行に伴う道路交通振動
予測条件の状況	<ul style="list-style-type: none"> ・ 工事用車両の状況(種類、台数、時間帯) ・ 一般車両の状況(種類、台数、時間帯)
ミティゲーションの実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・ 規制速度を遵守する計画としている。 ・ 低公害型の工事用車両を極力採用し、適切なアイドリングストップ等のエコドライブ及び定期的な整備点検の実施を周知・徹底する。 ・ 資材の搬出入に際しては、走行ルートの検討、安全走行等により、騒音及び振動の低減に努める計画としている。 ・ 工事用車両の走行に当たっては、周辺道路の交通量等の状況に応じ、適切なルートを選択する計画としている。 ・ 施工業者に対する指導を徹底し、工事用車両の過積載を防止する計画としている。 ・ 工事用車両が一時的に集中しないよう、計画的かつ効率的な運行管理に努める計画としている。 ・ 工事作業員の通勤に際しては、公共交通機関を利用する等通勤車両の削減に努めるよう指導する計画としている。 ・ 同時期に同計画地内で実施される日本中央競馬会の恒久施設改修整備との情報共有を行い、特に大型の工事用車両の走行ルートや走行時間帯の平準化を図り、騒音及び振動の低減に努める計画としている。

2) 調査地域

調査地域は、計画地及びその周辺とする。

3) 調査手法

調査手法は、表 5.2-2 に示すとおりである。

表 5.2-2 調査手法(東京 2020 大会の大会開催前)

調査事項		工事用車両の走行に伴う道路交通騒音	工事用車両の走行に伴う道路交通振動
調査時点		大会開催前及び開催後の期間のうち、工事用車両の走行台数が最大となる時点(工事着工後3か月目)とする。	
調査期間	予測した事項	代表的な1日の内、工事用車両の走行時間及びその前後1時間を含む時間帯とする。	
	予測条件の状況	【工事用車両、一般車両の状況】 「予測した事項」と同時期とする。	
	ミティゲーションの実施状況	工事中の適宜とする。	
調査地点	予測した事項	工事用車両走行ルート上の5地点(図5.1-1(p.17参照))に示す地点No.1~5)とする。	
	予測条件の状況	【工事用車両の状況】 工事用車両の出入口とする。 【一般車両の状況】 工事用車両走行ルート上の5地点(図5.1-1(p.17参照))に示す地点No.1~5)とする。	
	ミティゲーションの実施状況	計画地及びその周辺とする。	
調査手法	予測した事項	「騒音に係る環境基準について」(平成10年9月環境庁告示第64号)に定める方法(JIS Z8731)に準拠し、騒音レベル(等価騒音レベル： L_{Aeq})を測定する。	「振動規制法施行規則」(昭和51年総務省令第58号)に定める測定方法(JIS Z8735)に準拠し、振動レベルの80%レンジの上端値(L_{10})を測定する。
	予測条件の状況	【工事用車両、一般車両の状況】 ハンドカウンタによる計測(大型車、小型車の2車種分類)とする。	
	ミティゲーションの実施状況	現地調査(写真撮影等)及び関連資料(建設作業日報等)の整理による方法とする。	

5.3 交通渋滞

(1) 東京 2020 大会の開催前

1) 調査事項

調査事項は、表 5.3-1 に示すとおりである。

表 5.3-1 調査事項(東京 2020 大会の開催前)

区 分	調査事項
予測した事項	<ul style="list-style-type: none"> ・ 工事用車両の走行に伴う交通渋滞の発生又は解消等、交通量及び交通流の変化の程度
予測条件の状況	<ul style="list-style-type: none"> ・ 工事用車両の走行の状況 ・ 一般車両の状況
ミティゲーションの実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・ 工事用車両の走行ルートは複数のルートに分散させる計画としている。 ・ 工事用車両の集中稼働を行わないよう、工事工程の平準化に努める計画としている。 ・ 工事用車両の走行に当たっては、安全走行の徹底、市街地での待機や違法駐車等をすることがないように、運転者への指導を徹底する計画としている。 ・ 工事作業員の通勤に際しては、公共交通機関を利用する等、通勤車両の削減に努めるよう指導する計画としている。 ・ 工事用車両の出入口には交通整理員を配置する予定とし、計画地周辺の車両の通行に支障を与えないように配慮する計画としている。 ・ 工事用車両の走行に当たっては、出入口付近を走行する路線バスの運行スケジュールに配慮する計画としている。 ・ 同時期に同計画地内で実施される日本中央競馬会の恒久施設改修整備との情報共有を行い、特に大型の工事用車両の走行ルートや走行時間帯の平準化を図り、計画地周辺の車両の通行に支障を与えないように配慮する計画としている。 ・ 上記のミティゲーションも含め、周辺地域における交通の円滑化の確保が図られるよう詳細な施工計画を作成する計画としている。

2) 調査地域

調査地域は、計画地及びその周辺とする。

3) 調査手法

調査手法は、表 5.3-2 に示すとおりである。

表 5.3-2 調査手法(東京 2020 大会の開催前)

	調査事項	工事用車両の走行に伴う交通渋滞の発生又は解消等、交通量及び交通流の変化の程度
	調査時点	大会開催前及び開催後の期間のうち、工事用車両の走行台数が最大となる時点(工事着工後3か月目)とする。
調査期間	予測した事項	代表的な1日の内、工事用車両の走行時間及びその前後1時間を含む時間帯とする。
	予測条件の状況	【工事用車両、一般車両の状況】 「予測した事項」と同時期とする。
	ミティゲーションの実施状況	工事中の適宜とする。
調査地点	予測した事項	工事用車両走行ルート上の5地点(図5.1-1(p.17参照)に示す地点No.1～5)とする。
	予測条件の状況	【工事用車両の状況】 工事用車両の出入口とする。 【一般車両の状況】 工事用車両走行ルート上の5地点(図5.1-1(p.17参照)に示す地点No.1～5)とする。
	ミティゲーションの実施状況	計画地及びその周辺とする。
調査手法	予測した事項	ハンドカウンタによる計測(大型車、小型車の2車種分類)及び関連資料(建設作業日報等)の整理による方法とする。
	予測条件の状況	ハンドカウンタによる計測(大型車、小型車の2車種分類)及び関連資料(建設作業日報等)の整理による方法とする。
	ミティゲーションの実施状況	現地調査(写真撮影等)及び関連資料の整理による方法とする。

5.4 交通安全

(1) 東京 2020 大会の開催前

1) 調査事項

調査事項は、表 5.4-1 に示すとおりである。

表 5.4-1 調査事項(東京 2020 大会の開催前)

区 分	調査事項
予測した事項	・アクセス経路における歩車道線の分離の向上又は低下等、交通安全の変化の程度
予測条件の状況	・アクセス経路における歩車道線分離の状況
ミティゲーションの実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・工事用車両の走行に当たっては、規制速度の遵守、歩行者、自転車、一般車両等の優先の徹底、交差点進入時、右左折時における歩行者、自転車等の安全確認の徹底、市街地での待機や違法駐車等の交通安全教育を工事用車両運転者に対して実施する計画としている。 ・工事用車両の出入口には交通整理員を配置する予定とし、計画地周辺の一般歩行者の通行に支障を与えないよう配慮する計画としている。 ・計画地周辺の歩道等を占有する工事を行う場合には、代替路の設置、交通整理員の配置等を行う計画としている。 ・工事用車両の集中稼働を行わないよう、可能な限り工事工程の平準化に努める計画としている。 ・児童の登下校時間帯の通学路においては、特に安全走行を徹底する計画とする。 ・計画地北側特別区道(五輪愛馬通り)においては交通整理員を配置するほか、工事用車両は最徐行にて走行するなど、特に交通安全に配慮する計画としている。 ・同時期に同計画地内で実施される日本中央競馬会の恒久施設改修整備との情報共有を行い、特に大型の工事用車両の走行ルートや走行時間帯の平準化を図り、歩行者の交通安全に配慮する計画としている。 ・上記のミティゲーションも含め、周辺地域における交通安全の確保が図られるよう詳細な施工計画を作成する計画としている。

2) 調査地域

調査地域は、計画地及びその周辺とする。

3) 調査手法

調査手法は、表 5.4-2 に示すとおりである。

表 5.4-2 調査手法(東京 2020 大会の開催前)

調査事項		アクセス経路における歩車道線の分離の向上又は低下等、交通安全の変化の程度
調査時点		工事の施行中とする。
調査期間	予測した事項	工事中の適宜とする。
	予測条件の状況	工事中の適宜とする。
	ミティゲーションの実施状況	工事中の適宜とする。
調査地点	予測した事項	計画地及びその周辺とする。
	予測条件の状況	計画地及びその周辺とする。
	ミティゲーションの実施状況	計画地及びその周辺とする。
調査手法	予測した事項	現地調査(写真撮影等)及び関連資料の整理による方法とする。
	予測条件の状況	現地調査(写真撮影等)及び関連資料の整理による方法とする。
	ミティゲーションの実施状況	現地調査(写真撮影等)及び関連資料の整理による方法とする。

5.5 その他の項目に係るミティゲーションの実施状況

その他の項目に対してのミティゲーションについて以下に記載する。

(1) 土壌

開催前の施設の建設に伴う土壌は、「東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会実施段階環境影響評価書（馬事公苑）」（平成 28 年 12 月 東京都）として環境影響評価を実施済みであり、土壌汚染状況調査の結果、汚染土壌の存在が確認された区域については、土壌汚染対策法及び環境確保条例に基づき、適切な土壌汚染対策を実施した。

今後、工事中に土壌汚染が新たに確認された場合は、速やかに土壌汚染対策を実施する。

なお、土壌汚染対策を実施した場合は、その内容をフォローアップ報告書において明らかにする。

(2) 史跡・文化財

計画地内に史跡・文化財及び既知の埋蔵文化財包蔵地は存在しない。

なお、工事の実施に伴い新たに史跡・文化財が確認された場合には、文化財保護法等に基づき適切な措置を講じるとともに、フォローアップ報告書において明らかにする。

5.6 フォローアップ報告書の提出時期

フォローアップ報告書の提出時期及び内容は、表 5.6-1(1)及び(2)に示すとおりである。

参考として、「東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会フォローアップ計画書（馬事公苑）」（平成 28 年 12 月）におけるフォローアップ報告書の提出時期及び内容は、表 5.6-2(1)及び(2)に示すとおりである。また、「東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会フォローアップ計画書（馬事公苑（その 2））」（平成 29 年 8 月）におけるフォローアップ報告書の提出時期及び内容は、表 5.6-3(1)及び(2)に示すとおりである。なお、仮設施設のフォローアップ報告書は、恒久施設と併せて報告することを想定している。

表 5.6-2(1) (参考) 馬事公苑フォローアップの工程及びフォローアップ報告書の提出時期 (東京 2020 大会の開催前)

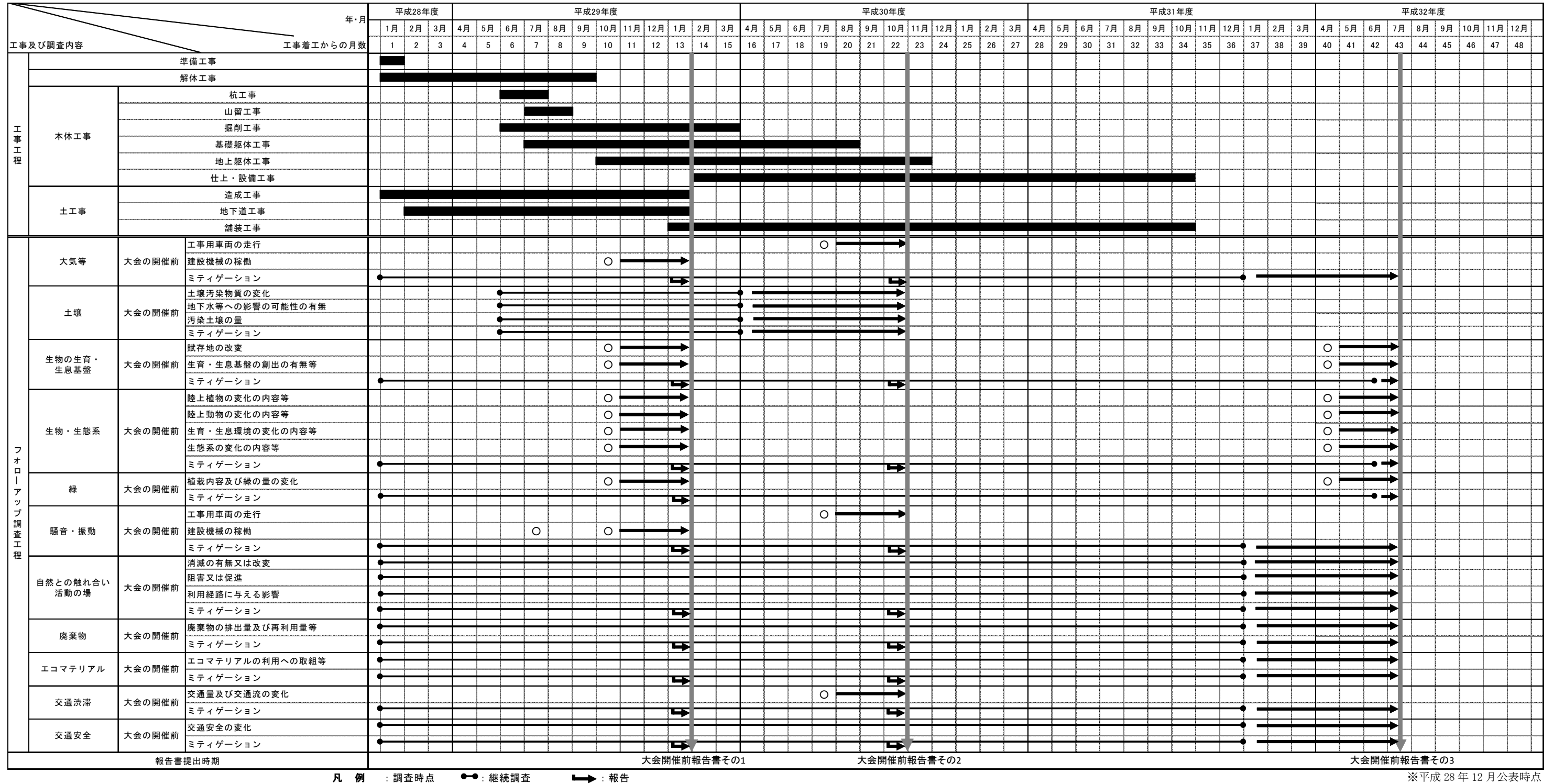


表 5.6-2(2) (参考) 馬事公苑フォローアップの工程及びフォローアップ報告書の提出時期 (東京 2020 大会の開催後)

年・月	平成31年度			平成32年度												平成33年度			平成34年度									
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
東京2020大会オリンピック競技大会																												
東京2020大会パラリンピック競技大会																												
大気等	大会の開催中																											
	大会の開催後																											
土壌	大会の開催中																											
	大会の開催後																											
生物の生育・生息基盤	大会の開催中																											
	大会の開催後																											
生物・生態系	大会の開催中																											
	大会の開催後																											
緑	大会の開催中																											
	大会の開催後																											
騒音・振動	大会の開催中																											
	大会の開催後																											
日影	大会の開催中																											
	大会の開催後																											
景観	大会の開催中																											
	大会の開催後																											
自然との触れ合い活動の場	大会の開催中																											
	大会の開催後																											
歩行者空間の快適性	大会の開催中																											
	大会の開催後																											
水利用	大会の開催中																											
	大会の開催後																											
廃棄物	大会の開催中																											
	大会の開催後																											
温室効果ガス	大会の開催中																											
	大会の開催後																											
エネルギー	大会の開催中																											
	大会の開催後																											
安全	大会の開催中																											
	大会の開催後																											
消防・防災	大会の開催中																											
	大会の開催後																											
交通渋滞	大会の開催後																											
公共交通のアクセシビリティ	大会の開催中																											
交通安全	大会の開催中																											
	大会の開催後																											

報告書提出時期

凡例

○ : 調査時点

● : 継続調査

→ : 報告

大会開催後報告書

※平成 28 年 12 月公表時点

表 5.6-3(1) (参考) 馬事公苑 (その2) フォローアップの工程及びフォローアップ報告書の提出時期 (東京 2020 大会の開催前)

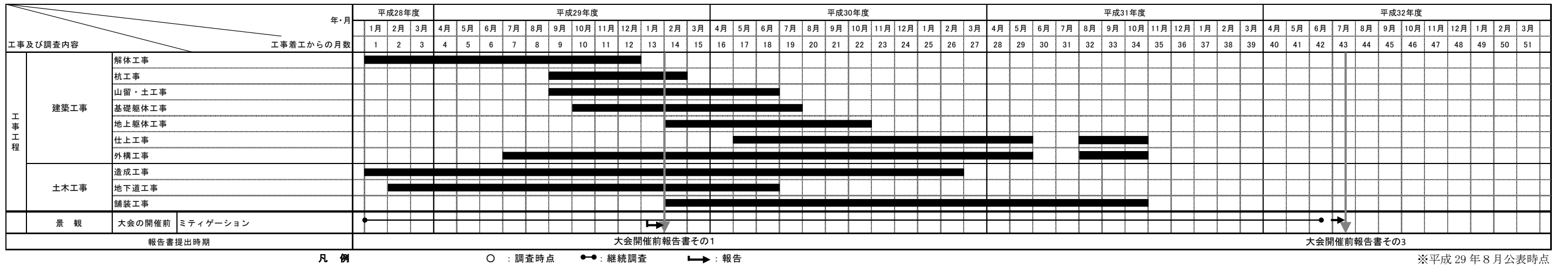


表 5.6-3(2) (参考) 馬事公苑 (その2) フォローアップの工程及びフォローアップ報告書の提出時期 (東京 2020 大会の開催後)

